

複層ビニル床シート（塩ビシート）のメンテナンスレポート

※UVコーティングなど表面加工された塩ビシートは除く（UVコーティング加工塩ビ系床材のメンテナンスレポートをご参照ください。）

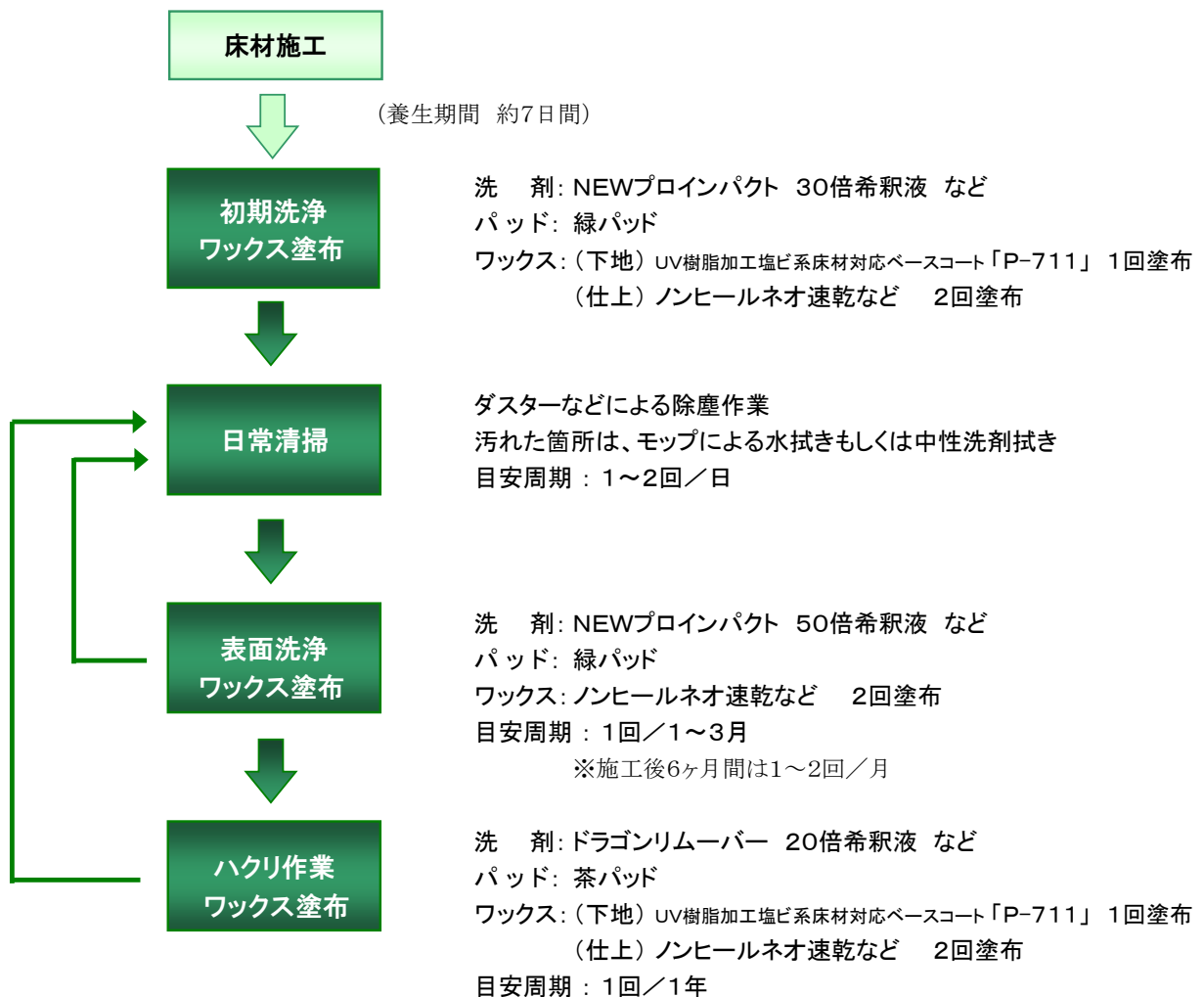
床材の性質

- 比較的弾力性がある。
- 耐洗剤性に優れる。
- 表面が平滑で光沢感があり、吸い込みは比較的少ない。
- 樹脂ワックスの密着性にやや劣る。
- 施工後しばらくの間は床材からの可塑剤の移行が多く、汚れやヒールマークが付きやすい。

メンテナンスポイント&注意点

複層ビニル床シートは吸い込みが少なく、床材からの可塑剤の表面移行が多いことから、塗布時に樹脂ワックスのハジキが起きたり、樹脂ワックスが床材との密着不良を起こす場合があります。そのため、初期洗浄の際は洗剤の希釈を多少濃くし、多少粗めのパッドを用い丁寧に洗浄しなければなりません。また、床材施工後しばらくの間（約6ヶ月程、長い場合は1～2年の間）は、移行した可塑剤により樹脂ワックス皮膜が軟化し、汚れやヒールマークが付きやすくなるため、表面洗浄の周期を短くし、汚れやヒールマークを取り除く必要があります。洗剤やハクリ剤の選定においては特に制限はありませんが、樹脂ワックスにおいては、施工当初に密着不良やヒールマークの問題が起きやすいため、それに対応したものを選定する必要があります。

メンテナンスサイクル例



メンテナンスポイントおよび作業方法

初期洗浄・ワックス塗布作業

ポイント

- 床材施工後の養生期間を置いてから、本作業を行います。
- 床材表面に床材施工に用いた接着剤跡がある場合は、きちんと除去します。
- 引き渡し清掃などで既にワックスが塗布されている場合は、密着テストを行い、もし密着していない場合は、ハクリ作業を行ってからワックスを塗布します。
- 洗浄の際は、洗剤の希釈を多少濃くし、多少粗めのパッドを用い丁寧に洗浄します。
- 巾木に付着した洗浄汚水は、乾く前にタオルで水拭きし、拭き取ります。
- 下地に密着性に優れた下地用樹脂ワックス、仕上げに耐ヒールマーク性に優れた樹脂ワックスを塗布します。

作業手順

除塵・粗ゴミ除去

<ダスターや自在ホウキ、チリトリを使用>

- ・ダスター等を用い、除塵作業を行います。

養生

<養生マスキングを使用>

- ・必要に応じ、養生マスキングを用い、什器などが汚れないように養生します。

洗剤塗布

<洗剤用モップ、床洗剤(NEWプロインパクトなど)を使用>

- ・NEWプロインパクトを30倍に希釈し、洗剤用モップで塗布し、約5分間放置します。
- *洗剤を希釈する際は、計量カップなどもを用い正しく希釈します。

洗浄

<ポリッシャー、緑パッドを使用>

- ・ポリッシャーに緑パッドを取り付け、かけムラの無いよう丁寧に洗浄します。
- *洗浄汚水の飛散防止のために飛散防止カバーをポリッシャーに装着します。
- *ポリッシャーが当たらない壁際などは、ハンドパッドで擦り洗います。

汚水回収

<吸水バキューム、フロアスクイジーを使用>

- ・洗浄後は、速やかに洗浄汚水を回収します。
- ・壁際やコーナー部の汚水は、フロアスクイジーを使用します。

水拭き

<水拭き用モップを使用>

- ・床面が乾燥する前に、水拭き用モップで3回水拭きします。
- *モップが汚れたら、早めに交換します。
- *面積の広い現場では、自動床洗浄機による水洗浄が効果的です。

乾燥

<送風機を使用>

- ・送風機を用い、床面を乾燥させます。

樹脂ワックス塗布

<ワックス用モップ、樹脂ワックス(下地:P-711、仕上:ノンヒールネオ速乾など)を使用>

- ・ワックス用モップで樹脂ワックスを均一に塗り残しの無いよう塗布します。
- *塗り重ねる際は、十分に乾燥させてから(ベタツキ感がなくなってから)行ないます。

乾燥

<送風機を使用>

- ・送風機を用い、床面を乾燥させます。
- *塗布直後(ワックスが濡れているうち)は、直接床面に風は向けず、最初は上に向けてワックスが乾きだしてから徐々に床面に向けるようにします。

日常清掃

ポイント

- 帯電モップは帯電剤が床面に移り、汚れの原因となることがあるので使用は避けます。
- ヒールマーク汚れは、モップなどで擦り落とします。
- 洗剤を使用する場合は、樹脂ワックスに影響のない中性洗剤を使用します。
- 雨天日は、雨水による汚れや滑りによる転倒防止のため、雨天時用マットを設置し、持ち込まれた雨水や土砂は早めに取り除きます。
- 広い面積の現場は、自動床洗浄機による洗浄が効果的です。

作業手順

除塵・粗ゴミ除去

<ダスターや自在ホウキ、チリトリを使用>

- ・ダスター等を用い、除塵作業を行います。

モップ拭き

<水拭き用モップ、必要に応じ中性洗剤(NEWプロインパクト中性など)を使用>

- ・汚れた箇所やヒールマーク汚れは、モップで拭き取ります。
- *油汚れが多い現場は、中性洗剤(NEWプロインパクト中性 50倍希釈)を使用します。

表面洗浄・ワックス塗布作業

ポイント

- 光沢の低下や汚れが目立ってきたら、本作業を行います。
- 洗剤を希釈する際は、計量カップなどを用い正しく希釈します。
- ポリッシャーが当たらない壁際などは、ハンドパッドで擦り洗いします。
- ポリッシャー洗浄でも落ちないヒールマーク汚れは、ハンドパッドで擦り落とします。
- 床表面が平らでなく不陸がある場合は、ポリッシャーで洗浄する際、横方向だけでなく、縦方向にも掛けます。
- 巾木に付着した洗浄汚水は、乾く前にタオルで水拭きし、拭き取ります。
- ワックスを塗り重ねる際は、十分に乾燥させてから(ベタツキ感がなくなってから)行います。

作業手順



ハクリ・ワックス塗布作業

ポイント

- 表面洗浄作業では、汚れが落ちにくくなったら、本作業を行います。
- ハクリ作業を行わない場所との境や、什器下に汚水が流れ込んでしまう場所は、養生マスキで養生します。
- ハクリ剤は、乾かないよう多めに塗布します。(乾いたら再塗布します。)
- ポリッシャーが当たらない壁際などは、ハンドパッドで擦り洗います。
- ハクリ後(ポリッシャーがけ後)の汚水は、乾く前に素早く回収します。
- ハクリ後(汚水回収後)に水洗浄を行うと、ハクリ剤成分を完全に除去、ワックスの仕上がりが良くなります。
- 巾木に付着したハクリ汚水は、乾く前にタオルで水拭きし、拭き取ります。
- ワックスを塗り重ねる際は、十分に乾燥させてから(ベタツキ感がなくなってから)行います。
- 下地に密着性に優れた下地用樹脂ワックス、仕上げに耐ヒールマーク性に優れた樹脂ワックスを塗布します。

作業手順

除塵・粗ゴミ除去

＜ダスターや自在ホウキ、チリトリを使用＞

- ・ダスター等を用い、除塵作業を行います。

養生

＜養生マスキを使用＞

- ・養生マスキで、作業場所との境や汚水が流れ込むような什器下に養生します。

ハクリ剤塗布

＜ハクリ剤用モップ、ハクリ剤(ドラゴンリムーバーなど)を使用＞

- ・ドラゴンリムーバートを20倍に希釈し、ハクリ剤用モップで塗布し、約5分間放置します。
- *ハクリ剤を希釈する際は、計量カップなどもを用い正しく希釈します。

ハクリ洗浄

＜ポリッシャー、茶パッドを使用＞

- ・ポリッシャーに茶パッドを取り付け、かけムラの無いよう丁寧に洗浄します。
- *洗浄汚水の飛散防止のために飛散防止カバーをポリッシャーに装着します。
- *ポリッシャーが当たらない壁際などは、ハンドパッドで擦り洗います。

汚水回収

＜吸水バキューム、フロアスクイジーを使用＞

- ・ハクリ後は、速やかにハクリ汚水を回収します。
- ・壁際やコーナー部の汚水は、フロアスクイジーを使用します。

水拭き

＜水拭き用モップを使用＞

- ・床面が乾燥する前に、水拭き用モップで3回以上水拭きします。
- *モップが汚れたら、早めに交換します。
- *水洗浄を行うと、ハクリ剤成分を完全に除去、ワックスの仕上がりが良くなります。
- *面積の広い現場では、自動床洗浄機による水洗浄が効果的です。

乾燥

＜送風機を使用＞

- ・送風機を用い、床面を乾燥させます。

樹脂ワックス塗布

＜ワックス用モップ、樹脂ワックス(下地:P-711、仕上:ノンヒールネオ速乾など)を使用＞

- ・ワックス用モップで樹脂ワックスを均一に塗り残しの無いよう塗布します。
- *塗り重ねる際は、十分に乾燥させてから(ベタツキ感がなくなってから)行ないます。

乾燥

＜送風機を使用＞

- ・送風機を用い、床面を乾燥させます。
- *塗布直後(ワックスが濡れているうち)は、直接床面に風は向けず、最初は上に向けてワックスが乾きだしてから徐々に床面に向けるようにします。